

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名: 「トウフ金髪とドカタ眼鏡のギア」

テーマ: 「図書委員で眼鏡なのに、土方のバイトでド根性持ちの美少女その他」

キャラクター

55

ストーリー

40

テーマ(設定)

50

文章力

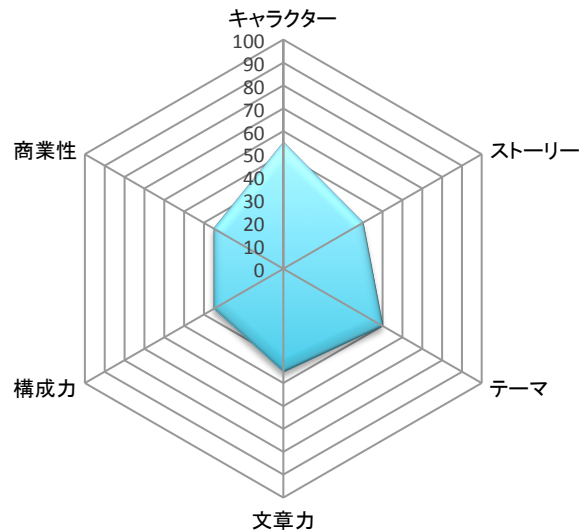
45

構成力

35

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・50枚という制限に苦しんでいることが十二分に伝わってきた。ただ最近のラノベ新人賞に送られて来る作品は「とりあえず作者様が面白いと思ったものを読み手が全部理解しきれるかはさておき全部詰め込んでみる」といった特徴をもっている作品が多く、今企画では50枚という制限の中で面白さを生み出すために、どの設定を切り捨てどの設定を入れるかという取捨選択能力を見たかったため故意に50枚としている。その点はご了承を。本当に申し訳ありません。

・宮塚と由上の二人のギャップを対比するという構造から既に面白い。よってバランスとしては、澤と萩原の話や性別叙述トリックはストーリー本体に繋がりが無いため、ここを消して宮塚と由上の相互作用による心情の変化などを描いていたらより一貫性がある面白作品になったのではないかと感じる。ただ恐らく作者様が一番書いていると思うのが澤と萩原(特に澤)であるような印象を受けたので、この作品はまた一つの独立した短編作品として出せばこちらもまた高評価となったのではないかと。

合計加点ポイント 0

総得点: 260 / 600

B方式総合得点: 11267 点